

国際サービスシステム メンテナンスニュース

VOL.69
2006/2/28

国際サービスシステム(株)

トリノ冬季オリンピックが開催され、連日ニュースでは日本選手の活躍が報じられています。メダルを期待されている選手達も頑張っているのですが、いまだメダルの獲得が無く、歯がゆい思いをしているのは、私だけでは無いと思います。一日も早く日本選手にメダルを獲得できるように祈るばかりです。さて今回のお話ですが、車のパーツとしては欠かせないタイヤについて、役割・サイズの表示・構造・メンテナンスなどをご紹介します。

VOL.69 タイヤの話(2)

タイヤの役割

- ①.車の重量を支える
- ②.車を走らせ、止まらせる(駆動力・制動力を伝える)
- ③.車の方向を変える
- ④.路面からの衝撃を吸収する

タイヤのサイズ表示

ラフタークレーンのタイヤのサイズ表示は、主に下記の3つの表示が使われています。

385 / 95 R 25 170 E

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
タイヤ幅(mm) 偏平率(%) ラジアル リム径(インチ) ロードインデックス 速度表示

* **偏平率**とはタイヤの高さをタイヤの幅で割り100を掛けた数値です。一般に数値が低いほど運動性能が良くなり、高くなるほど快適性能や経済性が良くなります。

* **ロードインデックス**とは最大負荷能力を示す数値です。上の表示の170ですと負荷能力は6,000kgになります。

* **速度表示**とはタイヤが走行できる最高速度を示す記号です。上の表示のEですと70km/hになります。

17.5 R 29

* **プライ**とはバイアスタイヤの強度表示です。

(プライレーティング)

↓ ↓ ↓ ↓
タイヤ幅(インチ) ラジアル リム径(インチ) プライ

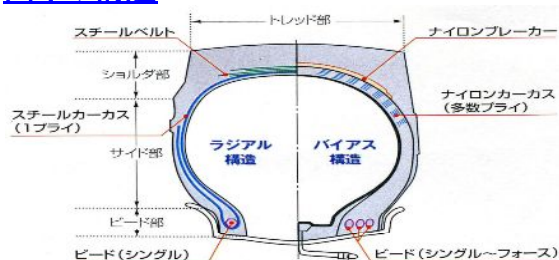
↑ ↑ ↑ ↑
16.00-25 28PR



タイヤ幅

最近のタイヤ表示はタイヤの情報を多く表示できる、一番初めにご紹介したサイズ表示が主流になりつつあります。またタイヤのサイズはタイヤに規定空気圧を充填しタイヤが路面に着かない状態でのサイズになります。

タイヤの構造



建設車両で使われているタイヤの構造は左の図のような断面になっています。ラフタークレーンではラジアル構造・バイアス構造どちらかの構造のタイヤが使われていますが、最近ではゴムの中に鉄(スチール)が編み込まれている、耐カット性に優れたラジアル構造のタイヤが多く使われるようになりました。

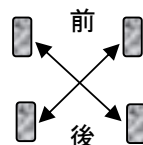
タイヤのメンテナンス

1. 空気圧の定期点検と調整

車を支えているのはタイヤの中に充填されている空気です。空気圧の低下はタイヤを異常摩耗させるだけではなく、発熱などで思わぬ故障を引起す場合があります。またタイヤの空気圧は自然に低下しますので、定期的な点検が必要です。一般にラフタークレーンの空気圧は8kgf/cm²(0.8Mpa)~9kgf/cm²(0.9Mpa)です。詳細については取扱説明書を参照の上、**定期点検・調整**を行ってください。

2. タイヤのローテーション

タイヤを経済的に使うにはローテーションを行うことが肝心です。一般にラフタークレーンのタイヤは5,000km走行毎に回転方向を変えるように「**たすき**」にローテーションを行ってください。



3. ホイルナットの緩みの点検とホイールナット・ボルト・リムの損傷点検

ホイールナットが緩んでいたり、規定トルク以上で締付けを行いますとホイールが外れたりホイールボルトが折損して非常に危険です。緩みの点検は定期的に行い、ホイールナット・ボルト・リムなどの点検も行ってください。

4. タイヤの外観点検

タイヤの主溝にはスリップサインがあり、スリップサインが現れたらタイヤの使用限度(摩耗限度)です。また外傷・膨らみ(セパレーション)・亀裂・ひび割れ・損傷がタイヤコードに達しているものについても交換が必要です。あまり知られていませんが、タイヤは晴天時に比べて雨天時の方が傷を受け易くなっていますので、雨天時の走行には十分注意が必要です。

* 現在、建設車両用のタイヤが不足しており、ご迷惑をおかけしています。交換のご予定がありましたらお早めに国際サービスにご連絡くださる様、お願いいたします。

ご不明な点、分からない事等ありましたら是非ご相談ください。